

特集 リハビリテーション医学の現状と展望

巻頭言

昭和大学医学部リハビリテーション医学講座

水間 正澄

リハビリテーション（以下リハ）医療は障害のある方や高齢者の活動を支える医療であり、さまざまな心身機能の障害に対処し活動性を高め社会参加を促して行くものである。

リハ医学の動向は医学・医療技術の進歩に加えて我が国における社会的背景や社会保障制度などの変遷とも密接に関連している。診断や治療技術など医療の進歩は救命率の向上や生命予後の改善をもたらしたがリハを必要とする方も増加している。また、平均寿命の延伸とともに高齢者人口の増加のみならず障害者の高齢化も進んでおり、リハが長期にわたり継続的にかかわってゆく必要性が増している。そのニーズは医療のみならず介護・福祉領域へと拡がりを見せている。医療のシステムは病院完結型医療から地域全体で支える地域完結型医療へと転換されつつあり、連携を基盤とした病院・施設から地域・在宅へ、医療から介護へという方向性が示された。そして、高齢社会を迎えて病院・病床機能の分化、急性期医療の充実、在宅医療・介護の推進、かかりつけ医の普及、地域包括ケアシステムの構築などが打ち出され、今後は地域におけるリハの役割への期待が高まっている。

特に地域包括ケアシステムは団塊世代といわれる方々が75歳以上となる2025年を見据えて、高齢者

がたとえ介護が必要な状態になっても、住み慣れた生活の場において安心安全に暮らし続けることのできるようにすることを目指している。システムを構築する上で最も重要な位置づけと考えられるのは医療機関相互の連携や医療と介護の連携であり、急性期、回復期、生活期（維持期）リハと分類されるリハ医療において地域・在宅を中心としたリハへの早期移行が推進され機能や能力の回復を目指すことも地域での重要な目標となってくるであろう。すなわち、生活の場に戻ってからも外来診療や訪問診療などにおいて、より質の高い医療を提供することが求められることになり、リハ科医の役割が重要になるとともに一般医家にとってもリハ医療に関する知識が欠かせないものとなるであろう。

今回の特集では、リハ医療を取り巻く様々な背景をもとに急性期、回復期そして生活期（維持期）リハの現状と課題そして将来展望について概説することにした。また、最近の話題としてとして、充実が図られつつある“がん患者のリハ”ならびに新たな治療手段として注目されているボツリヌス療法などを中心とした“痙縮に対する治療アプローチ”の二つを取り上げた。リハ医療の重要性が増している中で、本特集がリハ医療の知識・理解を深めていただく一助となれば幸いです。